

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200535		
法人名	(有)アイシン		
事業所名	グループホームだいこんの花		
所在地	岐阜県関市西神野605番地2		
自己評価作成日	平成22年9月3日	評価結果市町村受理日	平成22年11月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170200535&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170200535&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成22年10月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の特性を利用した地域ぐるみでのケアを目指し、出来るだけご本人様・ご家族様の希望に沿ったケアを提供させていただいています。  
ご家族様との関係が途切れないように行事の際にはお声かけをさせていただき、毎月の季節行事ではとても盛況に終わることが出来ています。  
今後、空間整備及び医療面についても充実したケアを提供できるよう計画中です。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム内には、婦人会の協力がある喫茶店があり、地域の方も来店して入居者との交流を盛んに行っている。自治会行事への参加、中学校の職場体験受け入れが続けられている。一人ひとりの生活歴を大切にし、入居後も継続出来る様に支援している。在宅時の市へ全員での一泊旅行、趣味のカラオケ大会参加、Nのど自慢大会への出演申し込み、T歌劇鑑賞を3年がかりで計画し、実行している。入居者の状態によっては、職員体制を変更して常時付き添い、鍵かけをしない自由な生活を支援している。契約時に、『苦情要望申立書』を渡し、家族からの意見を多く取り入れようと工夫している。

## . サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲げ、共有して一人一人の思いを大切にケアの実践を目指しているが、なかなか実践に繋がらないこともある見直し努力が必要	管理者及び全職員は、理念を十分に理解し、本人の思いを大切にしている。毎日の生活の中で、コミュニケーションを大切に、その人その人に合った介護をすることにより、実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 入居者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	レク、カラオケ等で地域の方・地元中学校生徒との交流を行ったり、野菜を頂いたり地域とのお付き合いはできている	中学校から文化祭への誘いや、職場体験、卒業生の訪問がある。婦人部営業の喫茶店訪問等、地域と頻回に交流がある。自治会にも加入しているが、地域の一員としての役割分担を果たすまでには至っていない。	入居者が地域の中で生活し、一員としての役割を果たしてゆけるように、支援して欲しい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	普段お付き合いのおおい婦人部の方や地域の男性の方には認知症の理解等が少しづつされている 地域の方に向けての介護に関する研修を行うと良い		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者が出席し、ミーティングの時に報告をし、それについて話し合いも行っているが、運営推進会議自体の家族の参加数が少ない 会議に職員も参加できるよう参加者の再検討をしていきたい	行事の時に開催する等、多くの人の参加が出来るように工夫して話し合いを行おうと努力しているが、活発な意見交換が出来るまでには至っていない。	運営推進会議への理解を深め、地域の人のみならず家族、関係者等に声かけを行い、活発な意見交換により、このホームの更なる向上を目指して欲しい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密ではないが、疑問点などがあった場合に必ず相談をしている	インフルエンザ流行の情報を得たり、スプリンクラーの設置等について相談している。入居者の事情によっては、法的対応方法を尋ね、自分の市のみならず、他の市町村とも連携をしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよう、具体的な行為などをミーティング時に話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる 夜間のみ施錠を行っている	研修会への参加、職員への周知徹底が計られている。身体拘束のみならず、言葉による拘束にも気をつけている。帰宅願望の人には職員数を増やし、一緒に外出する等、鍵掛けやセンサーマットの利用をしていない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、入居者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会を持ちたいと思う 更衣時・入浴時などに身体に変化がないかを注意している 身体的虐待は無いと言いきれるが、言葉掛けには自身がないので、気をつけたい		

グループホーム だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員がこの制度について理解はしていない。制度について学ぶ機会が持てていない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、入居者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に管理者より説明を行っている		
10	(6)	運営に関する入居者、家族等意見の反映 入居者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時に家族からの意見を聞く機会があり、反映させている	契約時、家族に『苦情要望申立書』を渡し、無記名で送って戴く様に伝えている。又、希望や要望の事例を挙げ、それを家族に公開する事により、言いやすい環境を作り、外出支援時の意見等を取り入れている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングが行われており、その時に聞いてもらっている	同性という事から代表者が聞いたり、長い職歴の職員が間に立ち、聞く工夫もしている。職員の希望を聞き勤務時間の変更や、希望休日の提出、入居者の状態による職員数の増加等、運営に反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるよう努めている 代表者が常に必要な時に現場に顔を出し、時には勤務にも入り色んな事を感じ取ってもらっている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のケアのしっさいと力量は把握しているが、研修を受ける機会がほしいと思う		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や相互訪問などはあるにはあるが、サービスの質の向上にはまだ活かされていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には特に関わりを多く持ち、安心して頂き、信頼関係を気付こうとしている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には要望等に耳を傾け信頼関係に努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 訪問美容など		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることをやってしまうのではなく、できることは一緒に行い、暮らしを共にする関係を築こうと努力している		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪された時には本人の様子、生活状況を伝え、本人、家族の両方の意見を聞き、一方的に偏らないように支援に努めている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援することは難しいが、できるだけ関係が継続して持てるように努めていきたい	入居前住んでいた市へ、1泊で全員で出かけたり、馴染みのT歌劇鑑賞は、三年がかりで計画をし、実行している。親族や知人へは行事の時のみならず、ホーム訪問依頼の声かけをし、関係継続に努めている。	
21		入居者同士の関係の支援 入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、関わり合いが難しい時もあるが間に入り支え合えるようにしている 多くは、関係が悪くなってからの対処が多いため、関係が悪くなる前に素早く対応ができるよう努力していきたい		

グループホーム だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	生活をして頂いていた時の関係性は大切にしているが、相談や支援はできておらず、退去されると徐々に途切れていってしまう		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴準備などを手伝って頂く時などに本人に聞きながら行ったりすることにより、全てではないが暮らし方の希望等は聞き入れることができている	入浴時や、居室にいる時、夜勤の時等、落ち着いて個別に話し合える時に希望を聞いている。ゆっくり話し合える事により、自分の本心を言えなかった人から、多くの思いを聞く事が出来ている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の記録やモニタリング・サマリーなどを見てなじんだ暮らし方などを把握できるよう努めているが、まだまだ大まかな情報しか把握していないため、もっともっとその人を知る必要があるバックアセスメントが取れると良い		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌確認・申し送り等を行い、把握に努めるとともに本人の表情、行動などを気にしている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人記録に記入し、他の職員の記録等を読み実践に役立てている 3ヶ月に1度のモニタリングを行い、ミーティングでも話し合っている	家族には訪問時や、郵送で意見を聞いている。入院等緊急時は、医師や関係者と話し合い、早急に計画し変更している。職員の意見により排泄の自立へ向けての支援や、誘導方法の変更等、現状に即して作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有できるよう個別記録にできるだけわかりやすく記入している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を把握し、病院受診など家族の方がいけない時は支援している 柔軟な支援で取り組んでいる		

グループホーム だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握できていないため、取り組みができていない		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な病院受診の際は、入居前からのそれぞれのかかりつけ医を利用し、病院での受診が困難な方には往診も行っている	提携医の往診はあるが、かかりつけ医を大切に、馴染みの病院受診を支援している。受診後の通院記録表を作り、家族に報告や郵送をして情報を共有し安心して治療、病状管理ができる体制作りが確保されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変わった状態や気付いたことは看護婦に伝え、助言や指導のもと、協同できている 看護師との連携もとれている		
32		入退院時の医療機関との協働 入居者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が契約時に説明をし、その後もその都度、情報交換や相談を行っている 入院に至るまでの経緯を細かく報告し、疾病に関する情報・治療の進み具合などを知ることが大切と考え、医療関係者との関係作りを行っている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホーム内で生活できる条件(内科的疾患、骨折の程度により入院が必要か、ホームでの生活が可能か)等は個々に話しをしている	状態の段階毎に家族と話し合い、ホームで出来る事、リスク等の説明をしている。看取りは考慮中ではあるが、医療的管理が必要になった時、家族や関係者、事業所間でその都度話し合い、支援をしている。	
34		急変や事故発生時の備え 入居者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当などの方法をしっかりと把握できていないので機会を設け、身につけたい 緊急連絡網を作成し、定期的に伝達訓練を行っている 意識がない時の対処法、のどに物が詰まった時の対処法の最低2点を専門家に学びたい		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練自体は行っているが、参加していない職員がいるため全員が参加できるようにしていきたい 昼間の訓練は行っているが、次の訓練時には夜間の訓練もやっていきたい	夜間想定も含め年に2回消防署・地域の方の協力を得て実地している。連絡網の作成をし近隣の方からの協力が得られる様にも支援している。又、スプリンクラー設置も検討をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには気をつけているが時におろそかになってしまう時があり、一番配慮に欠けているところでもあると思う。プライバシーなどを損ねない言葉かけや対応に努めている 認知症の方との関わり方などの講習を積極的に受けて正しい声かけ、対処方法を身につけたい	ドアノックをしての入室・人前でトイレに誘わない・自己決定をしやすい言葉かけ等をしている。気になる言葉遣いがあった時は、その都度注意し合っている。また認知症に関する接遇の研修会にも参加し取り組んでいる。	
37		入居者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員で勝手に決めずに本人に聞いて決めてもらい行動してもらえるように努力をしているが、それでも職員間で決めてしまっている事柄が多いので、今以上に自己決定ができる場を増やしたい		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしたいが、職員側の都合を優先しているところがある 特に入浴の時間などは職員の都合を優先していることが多い		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時などには普段と違う服を着て外出するようにしたり、髪型などにも心がけている その時には準備にも支援をし、着る服などを選んで頂いている 訪問美容を利用し、カラーなども行っている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し、量等も調整し、楽しみながら食事はできているが、一緒に台所に立って調理をすることや後片付けは一緒に行うことが少なくなってきたのでもう一度見直して入居者と一緒にできるように心がけたい	献立を一緒に考え、買い物・調理・片付け等、一人ひとりの能力に合わせて一緒に行っている。食事内容・量を個々に対応し、時間をかけてでも自分で食べる事によって、食事への関心、楽しみが持てるようにしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	持病により水分や量などの調整支援を行っている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけをして口腔ケアを行い、時には磨き直し等も支援している		

グループホーム だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに応じてトイレへの声かけを行い、紙パンツやパッドだけに頼らず、なおかつ、失敗をしないように支援している	排泄チェック表を把握し、時間毎に誘導を行う事で、ポータブルトイレを使用せず、トイレでの排泄が出来る様に支援している。用具使用状況一覧表を作成する事で、ケア内容が統一され自立に向かったケースもある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状況を把握し、食事内容や水分などで便秘にならないように心がけている 主治医の指導を仰ぐこともある		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は1日おきと決めてしまっているが、入浴時間などは入居者に聞き行ったり、「今は入りたくない」という入居者には時間を置いて声をかけるなどできるだけ気分良く入って頂けるよう努めている	1日おきの交代制であるが、希望があれば毎日入浴が出来る。同性介助を基本として、入浴拒否の場合には声かけ、時間帯への工夫、入居者同士で入る等、お風呂が楽しめる様に支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声かけを行い、昼でも休みたい時に休んでもらっているが、昼間に寝過ぎて昼夜逆転をしないように心がけている 夜間には気持ちよく寝て頂けるように寝具の清潔保持もできている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の把握は職員ができるように薬剤情報等にめを通すようにしているが、特にたくさん飲んでいる方は看護師任せになってしまっている理解していないこともある		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人にあった役割や楽しみを見つけて実践できるように努めているが、1日の大半がテレビやDVDをみて終わってしまうので、生活に張りはない インフルエンザや時候などにより外出できないこともあるが、その代わりに、室内での楽しみ事を探していきたい		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員不足を理由に、全ての人が希望に添って出かけられていないが、散歩やドライブなど外出できるよう考え直していきたい	日常的に散歩・買い物への外出をしている。月に1回外食の日を作り3～4人グループ交代で出かけている。年に1回行きたい所を聞き職員は下調べをして、要望に答えている。T歌劇団・カラオケ大会・高山への一泊旅行など色々な場所への要望がある。	

グループホーム だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>普段は事務所で管理し、外出の際は本人が使えるよう支援している</p> <p>本人自身で管理しているお金もある</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族に協力してもらいながら本人が電話したい時に電話をしたり、手紙を書いたりしているが、返事がない</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、入居者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>手すりを増設するなどをして、生活に不快感が出ないようにしている</p> <p>特に夏は事業所内の温度調整は難しく体感温度は皆違うため、その時々那人に合った対応をしているが、冷暖房が行き届いていない</p> <p>手作りカレンダーや花などを飾ることにより季節感を出されている</p>	<p>日中過ごす居間では、3つの机の置き方を工夫して入居者同士の話が弾む様にしている。</p> <p>共有場所には生花を飾り心とらぐ空間作りがされ、職員の持ち回りで作成した季節感あふれる月毎のカレンダーが飾ってある。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った入居者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビング・ソファ・テーブル席等で好きな場所で過ごせるようにしている</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が今まで使っていたタンスや仏壇など使い慣れた物、置きたい物を置いたり飾ったりしているが、その反対もあり、余計な物は置かず、家族や職員の希望通りの居室になっていることもある</p>	<p>家族・本人と相談しながら馴染みの家具・お仏壇・イスや観葉植物を置き居心地よく過ごせるように工夫をしている。置時計を二つ並べて置いたり、お札が貼ってある部屋もあり個々の好みを活かしている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自分の居室がわかるよう名前プレートを掛けている</p> <p>所々に危険と思われる箇所があるが、職員の気配りなどで安全な生活に繋げていきたい</p>		